

2026年2月2日 甲府市臨時議会本会議場 発言

プレミアム付き商品券では 本来の市民援助では不十分

山田 厚

プレミアム付き商品券は

本当に苦しんでいる人やお店に手が届いているか疑問！

プレミアム付き商品券について討論いたします。

激しい物価高騰インフレ期に市民生活を行政として援助することは、当然の義務です。しかし、プレミアム付き商品券のやり方と内容が、本当の意味で苦しむ市民に手が届いているのか疑問だからです。市民を援助する物価対策として、この間3回行われてきたプレミアム商品券の総括をすべきです。運営に苦しむ市民生活、支援でしょうが、本当に苦しんでいる人やお店に手が届いていると言えるのでしょうか。

事業費の業者支払いがこれまで4億円も、利用者も4万人程度

これまで3回、17億円ほどの大事業でした。事業費全体24%は、業者への事務費支払いで**4億円以上**です。商品券を支援された市民は、3回それぞれ申請が必要であり、申請がなかったら駄目です。ですから、利用者は4万人程度。使えるお店も限定されています。しかも、決めてからも、その**実施は半年以上先**の援助となっていました。

今回、プレミアム商品券10億円を超える予算で、結局、業者の**事務費2億**

円ほど取られるそうです。実施については、Pay Payの場合、東京の業者もあり得ます。

市職員の多忙化で心身の健康が不安に

それは市民への粗雑な対応にもなってしまう

そもそも、具体的実施についても、業者やお店の選定を行い、人手が足りない市職員の多忙化をさらに進めもいたします。この2月、4月は、通常の年末年始の多忙化、確定申告期、それ以外に、さらに第7次総合計画の実施計画をつくらなければなりません。それに総選挙です。この状態では、職員の皆さんの**心身の健康は本当に不安**です。そして、**粗雑な市民への対応**になってしまう可能性が大きいと言わざるを得ません。

援助をするなら水道料金、

簡易水道料金の基本料の減額を続けるべき

そして努力されても（プレミアム商品券が）始まるのは、今年の夏の7月か8月頃、ずっと先の援助の実施になってしまうそうです。

以前から私どもは、援助をやるなら無駄のない水道料金基本料で減額の援助をすべきとしてきました。今回は援助として、5億9,000万円ほどで、水道料金、簡易水道料金など減額が実施されます。プレミアム商品券より金額は少ないですが、この援助は歓迎いたします。

なぜなら、比べてみればこの差は明らかです。市民の水道料金基本料、簡易水道料金などの援助っていうのは、申請もなく、**自動的**に行われるのであり、言わばプレミアム商品券の事務に当たるシステム改修費は、当面385万円、**総額でも2,000万円程度**とお聞きしました。また職員の負担はほとんどかかりません。しかも、援助の実施は、今年の4月の検針から始まり、来年の1

月までということですよ。

どちらがいいのか。私どもは、プレミアム商品券などをやめて、全て水道料、簡易水道料の減額でやるべきだと、この間の総括を見てもそれは明らかではないかと思われます。

戦後最多の生活と労働の厳しさ、最も厳しい人に援助すべきです

先の委員長（常任委員会）報告でも、プレミアム商品券だと**30%程度の対象者**とお聞きしました。そもそもこの事業は**全市民の対象**ではないですか？！このことをもっと真剣に総括すべきだと思われます

（プレミアム商品券は）1口5,000円、3口1万5,000円としても、それに**手が届かない人々がいる**ということを忘れてはいけません。私の近所でも、パンを1切れずつ、朝と夜に1切れずつ食するだけ、一つのおにぎりを2つに分けて1食ずつというご家庭があったということを直接私は聞きました。

子どもの自殺、去年は530人ということ。これは戦後最多です。その理由は生活と経済の理由だということですよ。こんな社会でいいのですか。こんな厳しい社会に対して行政は一定程度、漏れなく、**最も厳しい人に援助すべき**です。

したがって、今回のプレミアム商品券というより、水道局料金にすべきだと。その総括をしっかりとすべきだったのではないのでしょうか。

以上を繰り返して求めて、討論とさせていただきます。

※これは議会事務局が録音した山田の発言を、機械で起こしてもらったものです。臨時議会での討論は実質ノー原稿での発言です。小見出しや（ ）は理解のために付け加えたものです。

残念ながら賛同は、社民党と共産党会派の5名だけの是正要求で否決されました。しかし、この主張は続けていきます。